

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
放課後等デイサービス unico新宮		2025年 4月 25日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○		概ね評価できるが、基礎の関係でトイレに行くために2段階を上がる必要がある。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		・月1回の運営MTGや毎日の支援の振り返りを実施し、全スタッフで業務改善に努めています。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		全職員で保護者向け評価表の閲覧を行い、誠実に対応するとともに業務改善に取り組んでいます。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	・第三者機関からの評価を受ける代わりに、本社職員を事業所に派遣して評価を行う内部監査制度を年2回実施しています。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・月に1回程度、支援の質を向上させるための研修を実施しています。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○			

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		活動プログラムを作成する際、子どもだけでなく大人も興味関心のあることを共有したり、保護者や子どもたちからリクエストを受けるなどしています。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			
	23	定期的にもモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○			
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。		○	・保育園等への直接の聞き取りは行っていませんが、保護者や相談支援事業所からの情報収集を行っております。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	-	-	・これまで該当する利用者がいないため提供はしていませんが、今後障害福祉サービス事業所へ移行するケースがある場合には対応したいと考えています。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		○		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○		

	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。		○		・送迎業務等の時間と被るため参加できないことが多いですが、参加できるよう調整検討していきます。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○		
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		○		
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			

対応	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○			

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス unico新宮			
○保護者評価実施期間	2025年 2月 12日		～	2025年 3月 7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	49名	(回答者数)	22名
○従業者評価実施期間	2025年 2月 12日		～	2025年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)	4名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 14日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多様な体験や学び、内発的動機づけにつながるワークショップの実践	季節を感じられる行事や体験型/学習型などの外出ワークショップ、また日々の多様な活動を、子どもたちが選べることを意識して実施しています。また子どもたちが主体的に活動に参加できるよう、挑戦する意欲へのあと押しとなるような関わり方を実践しています。	・より多様な体験や学びにつながるよう、活動後の職員間の振り返りや企画考案/児童や保護者様からの募集を都度行ってまいります。
2	お子さま一人ひとりが自分で考え選択することができることを大切にしたり関わりや環境	・自身の気持ちに気づき、向き合い、行動を選択していけるよう、コーチングをベースにしたコミュニケーションの実践を行っています。 ・活動内容や状態に応じて過ごす場所を自分で選択できるよう、多様なスペースを設計しています。	・支援内容についての毎日の振り返りや保護者様との情報共有、社内研修などを通して、お子さま一人ひとり応じた選択肢の拡充や支援内容の向上に努めてまいります。
3	お子さま一人ひとりが安心して通うことのできる居場所づくり	・お子さま一人ひとりが「ここに居たい、通いたい」と思えるような開放的な空間を意識して、採光や色を取り入れたり、個々の活動に適した部屋割り等の環境設定を行っています。	・今後も清掃の徹底のみならず、設備保全/修繕や、ツール・遊具の充実など療育的側面も意識した環境整備に努めてまいります。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	お子様の年齢や特性に応じた集団活動の創意工夫	・運動/制作学習等、状況に応じた環境を選択できるような部屋割りやスペースの設計をしていますが、よりお子様のニーズに合わせた集団活動や環境の設定が必要と考えています。	・教室内スペースや備品の配置転換等を活動に合わせて柔軟に行います。 ・教室外の環境も適宜活用しながら、療育ニーズに応えてまいります。
2	保護者様との日々の支援や療育内容などの情報共有	・職員間の連携不足から、ご利用の際のご様子の共有が十分に行えていないことがありました。 ・個別支援計画書と専門的支援実施計画書の関連性においてご説明に合わせ、日々の支援効果との繋がりを伝えていけるようにする必要があると考えております。	・保護者の皆様が安心してご利用いただけるよう、職員間で個別支援計画書の目標に基づく日々の支援内容を共有し合い職員間の連携を強めていくと同時に、保護者様への情報共有に努めてまいります。

3	事業所の取り組みや関係機関との連携など保護者様の安心感につながるような情報の提供	・事故等緊急時の対応やその後の対策検討会や非常時避難訓練等の実施と保護者説明等を行っておりましたが、より細やかに詳しく説明していく余地があります。 ・併用事業所様・相談支援事業所様との連携や情報共有から、保護者様に安心していただけるよう日々の支援状況に合わせ支援の意図や成果をお伝えする工夫や機会創出の必要性を再認識いたしました。	・事業所での取り組み、他事業所との連携についてなど、担当者会議や定期モニタリングなどで都度お伝えします。
---	--	---	--